

第 23 回 ホソカワ粉体工学シンポジウムを大阪で開催

[日時] 平成 28 年 11 月 2 日 (水) 午後 2 時 30 分～午後 5 時

[場所] ホソカワミクロン株式会社 本社 12 階 大会議室

[主催] 粉体技術談話会

[共催] (公財)ホソカワ粉体工学振興財団

[後援] ホソカワミクロン株式会社

去る 11 月 2 日 (水) に粉体技術談話会主催、当財団共催の第 23 回ホソカワ粉体工学シンポジウムが開催され、「機械的粒子設計による製剤技術と粉塵爆発対策」をテーマとして、2 件の講演があり、活発な討議が行われました。

最初の講演では名城大学薬学部丹羽敏幸教授が、「Mechano-fused spheronization: 機械的粉体融合化技術による薬物球形粒の設計と医薬品産業への架け橋」と題して、乾式での高速攪拌せん断処理により、薬物結晶の粉碎と造粒・球形化を単一操作にて遂行するハイブリッド技術の開発について講演されました。またこの系内に添加剤粒子を共存させて、微細化された薬物結晶が添加剤核粒子を被覆したオーダードミクスチャー型複合粒子が得られること、そしてこれらを用いた粒子設計技術の事例の紹介と共に、その機構や薬剤特性、ならびに医薬品産業での適用に関して言及されました。

2 番目の講演は、「粉じん爆発の危険性とその対策」と題して、東京大学化学システム工学科土橋律教授より、燃焼の基礎から粉じん爆発のメカニズム、ならびに粉じん爆発の実例や動画を使っの粉じん爆発の実験模様の紹介がされ、さらに、粉じん爆発の発生防止対策から被害軽減対策技術まで幅広い解説がされました。

講演会の出席者数は 60 名を超え、講演会場は満杯状態で、いずれの講演についても大変活発な質疑応答がなされ、時間の関係で質問を受ける時間が無くなる状況でした。講演会の後、懇親会が催され、終始和やかな雰囲気の中、各講師と来場者間で有意義な交流が行われました。



講演会風景



懇親会風景